福島県教育庁相双教育事務所 学校教育課

R3 研修会 REPORT

〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1314
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

避難地域１２市町村における
少人数教育に対応した教授法に関する教員研修

日　時：令和３年９月３０日（木）9:30～12:00
参加者：小学校教諭３０名、中学校教諭２２名、義務教育学校教諭　２名
　　市町村教育委員会　７名　　合計６１名
内　容：大熊町立学校による実践発表
　　講演 「学習者中心の学び、誰一人取り残すことのない個別最適な学び」
　　北海道教育大学　教授　川前　あゆみ　様
　　避難地域 12 市町村からの参加者による小グループでの協議

研修のまとめ（指導主事から）

川前先生の講演より、少人数教育による個別最適な学びに向けての取組ポイントは、以下の３点です。

（１）自己肯定感を高める異年齢集団の交流活動。

（２）小規模性を活かした学習指導・授業運営等のデザイン。

（３）少人数指導の対面授業のよさと複数校をつなげる遠隔授業のよさを活かした授業展開。

今後も、教育活動がより創造的で豊かな教育実践となるよう、少人数教育についての研修を深めていきましょう。

今後、取り組みたいこと（受講者から）

○少人数教育のマイナスイメージを、自分のなかでプラスに考えながら指導していきたい。

○主体性、自律性を育むために、教職員間で意思疎通を図って指導に当たっていきたい。

○必要とされるまで待つこと、本人の「～したい。」という気持ちを引き出していくことを考えていきたい。

○異学年交流を通して、他者を意識する活動の充実を図っていきたい。また、座席配置等も工夫したい。

○各学校の ICT の活用方法を知ることができてよかった。使えるソフトやアプリは違うが、教員同士で連絡を取り合うことができるチャット機能などは使ってみたい。

○他校とのオンライン授業や ICT 教材の活用を積極的に行っていきたいと思った。そのために、自分自身のスキルを向上させるとともに、児童生徒も ICT 機器を日常使いすることによって、活用スキルを身に付け、文房具のように使用できるようにしたいと思った。

１０月２０日　発行